

特集

「思いやり」の発達科学

子どもは生まれながらにして善なののでしょうか？ それとも悪なの
のでしょうか？ 心理学者のマイケル・トマセロは、私たちは「助け
るように生まれてくる」と述べました。つまり、他者と協力し合い、
困っている他者に手を差し伸べる傾向は、私たち人間の本質だとい
うのです。

この性質が生まれながらのものなのかどうかについてはいまだ議論
が続いていますが、近年の研究は、生後1～2年目の赤ちゃんでも
思いやりの心を示すことを報告しています。さらに、思いやりの心
を支える脳神経基盤や遺伝子の役割についても少しずつ明らかにされ
つつあります。これらの研究は、私たち人間における思いやりの発達の
起源や、その個人差のメカニズムについて多くの示唆を与えてくれ
ます。一方で、昨今世界の各地で人々の間の分断が進んでいる中、「異
質である」と見なした他者を受け入れる心、すなわち寛容性の在り方
も注目を浴びています。

本特集では、これらのトピックについての最新の研究をご紹介します。
「思いやり」の発達科学の最前線に触れ、人間というものの存在
の本質についてあらためて思考をめぐらせてみませんか。

(清水由紀)